

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461		
自己評価作成日	平成29年11月3日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detai_2017_022_kani=true&g_yosyoCd=2172200343-00&refCd=21&Ver: onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「天の花」では、医療と介護などの専門職員がお互いの力を認め合い、利用者が安心して暮らせるよう日々努力しています。
 また、看護師も常駐し、在宅医療の専門医が往診に来ていただけるため、医療的管理が必要な方も安心してご利用いただけます。
 家庭的で暖かな雰囲気と笑顔の中で、住み慣れた地域の中で、その人らしい生活を支援させていただいてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの思いを大切に、その人らしい暮らし方ができるように支援している。利用者夫婦の60周年婚式を利用者・家族や職員と一緒に祝う式典も手作りの演出をし、利用者同士のつながりや家族との信頼関係を築いている。利用者と一緒に地域に出かける事で住民との交流を深めている。地元スーパーでの認知症啓発活動や小学生に認知症サポーター養成講座を実施するなど、認知症への理解を深める活動から認知症カフェの開設予定に繋げている。24時間の医療・介護の連携が強く、重度化し医療処置が必要になっても、本人や家族の意向を尊重し協力医と話し合いながら、最期まで過ごせる体制にしている。事業所内で室内犬、中庭で兎・亀・アヒルを飼育し、利用者の癒しにつながるケアを提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と一日の出来事の共有しています、また何かしらの変化やアクシデントがあれば早急に報告し合い、引き継ぎを心がけています。	法人理念と事業所理念を朝礼で唱和し意識づけて、毎日の介護で実践している。毎月のミーティングで、職員から出た意見に対し、理念に基づいているかを確認し、考えるきっかけを作り浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや清掃活動など積極的に参加しています。最近では地域の方達が気遣ってくださり、お声もかけてくださるようになりました。	地域行事や清掃活動に利用者と一緒に参加し、隣接する町の図書館に出かけて日頃から交流している。保育園児の定期的な来訪や地域ボランティア・小中学生の福祉体験受け入れによる交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一環として小学校の児童に認知症とは・・・認知症の方への接し方などの寸劇を実施しています。地域ぐるみで認知症の方を支援できるよう今後も貢献していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では幅広い方のご意見を頂いています。アクシデントレポートもお伝えしています。また、お亡くなりになった方を偲んで思い出話をしています。ご家族の意見や要望も取り入れるように努めています。	役場の理解も得て日曜日の午前で開催し、家族が参加しやすくしている。事業所の現状・認知症の話や事例を報告し、意見交換を行っている。地域行事の案内をもらい、利用者と一緒に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告も含め、日常的に交流を持つようにしています。また、市町村の催し物にも参加し顔を覚えていただくことから始めています。	町主催の会議・連絡会や勉強会に参加し、情報交換や困難事例を話し合っている。介護相談員の受け入れや認知症の啓発活動への協力もしている。担当者で協力関係を築き、認知症カフェを開設予定にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての理解や実践はまだまだ課題が残っています。拘束をしなければ事故が起きてしまう！という考えや夜勤者の現状を考えるとなかなか徹底した拘束をしないケアに繋がっていきません。安全とは何か？拘束をしないケアとは？カンファレンスを通して伝えています。	拘束になりやすい事例をミーティングで話し合い、勉強会も定期的に行ない拘束しないケアに努めている。玄関近くを歩き来する人には、職員が散歩に付き添っている。安全重視の為のベッド柵は、家族に同意を得て職員で話し合っているが、使用期間が継続している。	利用者の安全を優先した対応ではあるが、職員で話し合った結果と実践内容の記載や代替の方法での取り組みなどの工夫をし、拘束が継続しない努力が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	常に観察を行い、普段から皮膚の状態は良く観ています。お風呂時や更衣時にもしっかり観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。日常の介助方法も見直しています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告としてカンファレンスで共有しています。もっと、色々な職員が参加出来るようになっていきたいと思っています。(現在は管理者のみが参加し伝えています)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い同意を得ていましたが、契約などに来られない家族様からの苦情や問い合わせが多いことから顔の見えない家族への対応や説明をしっかりと行う必要があると感じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のカンファレンスや個人的に話が出来る時間を設け、意見・提案を聞くようにしています。また、各フロアリーダーを通して意見や要望があれば聞くようにしています。話しやすい関係性が大切だと思います。	来訪時に日頃の様子を伝えて、意見をもらっている。来訪が少ない人にはメールで意見を聞いている。年1回は家族アンケートを実施し個々に返答している。役割をもたせて欲しい要望に餌やり・パン焼き等の活動につないだ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスの他に個人面談を実施しています。運営に関することでの意見を取り入れることは現場の声を聞く。という面でも重要だと思っています。	日頃の業務内・ミーティングや個別面談にて意見を聞いている。電気製品・備品の購入や修繕等の意見は、随時取り入れている。勤務形態・休日や勉強会の希望を聞き、意見や要望が叶いやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるよう研修システムや就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声をかけ不安やストレスはないか？を確認しています。また、表情や最近の勤務態度などの非言語的なようすからもくみ取るようにしています。また、法人内の研修には積極的に参加してもらうよう勤務調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや社会福祉協議会の方と認知症養成講座を通じて交流をしています。また、グループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場になっています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前訪問にご自宅へ行かせてもらってます。その人の生活環境や生活歴などの話をじっくりと聞き利用者の思いをお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至るまでの家族様等からの問い合わせや相談ごとは、施設長と看護師でもある副施設長で介護・医療を分けて対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、相談内容と要望をお聞きしています。家族様がどのような状況の中で相談しているかを把握してサービスの話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、なじみの関係性ができるよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。逆に馴れ馴れしすぎる対応も配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を取り合い、お互いの情報共有をしています。また、家族様側のお話も聞く時間をもち立場や思いを聞き取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の交友関係を大切に、今までお付き合いのあった友人は積極的に来ていただき、交流が途切れないようにしています。友達交流は盛んです。	入居前の自宅近辺へのドライブをして、馴染みの喫茶店や美容院等に行っている。地域行事や図書館で友人に出会ったり、併設のデイサービスで知人と会ったりする事もあり関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作成することや同じ作業をすることで共通の時間が持てることやリビングで過ごす時間を持って頂くことで憩いの場が提供できています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様がお亡くなりになることで交流が途絶えることが多いです。これまで築いてきた関係性を大切にしたいと考えております。グリーンケアなど、遺族が集まれる会を作れたら・・・と思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように思います。そのひとらしい暮らしの実現は今後の課題です。	側に座り、じっくりと思いを聞いている。困難な人には、その人の行動を見逃さず思いを把握し、飲み物は絵で示し、指さしや顔きで伝えやすくしている。些細な事でも詳細に記録し、情報を共有しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみのものやなじみの関係性はかなり重要だと思っています。施設に入ると社会との交流まで閉ざされる傾向があるため施設事態がオープンであるよう心がけています。アセスメントシートではご本人の暮らしをお聞きするようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方を尊重するようにしていますが、なかなか食事や入浴などはこちらの段取りでお願いすることが多いです。心身状態は常に観察し、必要であれば看護師に報告するなどしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。また、現状で出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。	利用者や家族の希望を聞き、医師の意見も参考に介護計画を作成している。支援内容を細かく記載し実施と評価をわかりやすくしている。あわせて日誌の記録を基に、ミーティングやミニカンファレンスで話し合いモニタリングし、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フローシートにその日の様子を記入しています。一枚をみれば分かるよう工夫しています。また、毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々の実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるような工夫をしています。しかし、なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や児童や生徒さんとのふれあいを積極的に取り組むことで社会交流が図られています。近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の存在は大きく利用者様の安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療が受けられるよう配慮しています。	入居時に協力医に変更する人が多い。かかりつけ医を受診時は、看護師も同行し日頃の状態を伝え、協力医とも連携している。訪問歯科の利用や薬剤師・歯科衛生士とも協力し、医療との連携を厚くしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者様の健康に留意し、いつもと違う、なにか変だ、と言うときはすぐに報告しています。適切な段階で看護介入できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は定期的にお見舞いに行き、病棟看護師や看護師長との連携を図っています。 また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方や看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。 ご本人の安楽を優先して考えています。	入居時に事業所の方針を伝え、看護師を4名配置し看取り体制を整えている。状態に合わせて家族に意向を確認し職員とも話し合い、家族には協力医が説明し、情報を共有しチームで支援している。「独りぼっちにならないように」と終末期には、家族も宿泊して一緒に看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などの事故や急変が起きた場合には速やかに対応⇒報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。夜間対応に関する訓練が出来ておらず、今後、早急を実施します。	ハザードマップを活用し地域への連絡網も見直している。水や食料等を備蓄し、ミサイル発射時の避難方法も作成している。通報・初期消火訓練や煙体験ハウスでの訓練を行っているが、夜間想定ができていない。	夜間帯での限定した職員体制で利用者の安全を確保する為に、専門機関や自治会の助言も得て、職員で話し合い実施されたい。

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なくかける言葉のきつさや相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けられます。みんなで確認し、注意しあえる関係作りも必要だと思っています。	排泄への誘導等は、羞恥心に配慮した声かけをして、カーテンやドアを閉めて行っている。気になる声かけには、利用者がいない場所で注意している。入室時はノックし、呼称はさんづけにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズを日常生活会話からさりげなく聞き出し、ケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。自己決定できる環境作りも大切だと感じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュアでお洒落を楽しんだり、ヘアスタイルをご自分で決めていただいたりし、その人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは、事前にアセスメントし提供していますが、ADLの低下で食事形態を変更しています。厨房での調理のため片付けを手伝っていただいています。	果物の皮むき・パン作り・たこ焼き・盆ふき等の出来ることを一緒に行っている。トロミ剤は最小限とし味を損なわない調整をしている。利用者の隣に座り、食材や調理法を話題にして楽しく食事ができる雰囲気になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせて、フロア内や居室での口腔ケアの実施はできています。必要に応じて訪問歯科の利用が行えます。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能を評価して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。	排泄チェック表でパターンを把握し、立位がとれる人はトイレ排泄とし、その人に合わせて早めにトイレ誘導し、自立に向けた支援をしている。夜間のみポータブルトイレ使用や見守りを受ける人もいる。オムツからリハビリパンツに改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の方法にあった便秘予防に努めています。それでも排便困難時は、看護師と相談し服薬等で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・ヒアリング等による体調確認、意向確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りを努めています。	入浴順や時間は利用者の希望に沿うよう、柔軟に対応している。好みのシャンプー・ボディソープを使用し、季節の柚・菖蒲・ヨモギ湯も楽しんでいる。週1回は温泉水を使った大浴場で温泉気分を感じてもらっている。嫌がる人には声かけの工夫や職員が交代し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、就寝は本人の思いを確認しながら行っています。生活リズムを整える方、起きていると負担のある方に関しては、離床や休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師にて行っています。服薬に関しては、準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることなどをアセスメントし、行ってもらっています。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望により散歩等出来るだけ行うよう支援しています。家族が来所され外食や中央ホールでの団欒での食事など施設をオープンにして、その人の思いに寄り添える支援をと努めています。	利用者のその日の希望で、散歩・図書館やドライブ等に出かけている。木曾三川公園・コスモスやあじさい見学・道の駅・お千代保稲荷等に車イスの人も一緒に外出している。家族の協力を得て買い物や自宅に行く時は、外出時の注意点や身体状況を伝えている。	

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所にあたり、今までお金を所持していた利用者が突然お金が持てないことは、とても辛いことです。 その人に応じて金銭を管理してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節感が味わえる物や飾り物そしてアロマオイルで臭覚の刺激。 利用者が心地よく暮らしてもらえるよう心がけています。	玄関・居間や廊下等に季節の生け花や壁面作品を飾っている。室温を確認しながら空間で温度差が生じないように加湿器も併用し、湿度への配慮もしている。日に2回は換気し、カーテンの開閉で日差しや明るさへの気遣いをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場の提供に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の思いで馴染みのある物を持ってきてもらい落ち着ける空間作りができるよう心がけ工夫している。	自宅で使い慣れた毛布やTVを持ち込み、仏壇・色紙・作品・家族写真等を飾り自分らしい居室にしている。居室での写経や本を読んだり、鉢植えの世話をしたりと自由に過ごせる支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。 季節感の味わえる花や飾り物や食物も施設周りに植え実を収穫してもらっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461		
自己評価作成日	平成29年11月3日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&li_gyosyoCd=2172200343-00&PrEfCd=21&VersiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と一日の出来事の共有しています、また何かしらの変化やアクシデントがあれば早急に報告し合い、引き継ぎを心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや清掃活動など積極的に参加しています。最近では地域の方達が気遣ってくださり、お声もかけてくださるようになりました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一環として小学校の児童に認知症とは・・・認知症の方への接し方などの寸劇を実施しています。地域ぐるみで認知症の方を支援できるよう今後も貢献していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では幅広い方のご意見を頂いています。アクシデントレポートもお伝えしています。また、お亡くなりになった方を偲んで思い出話をしています。ご家族の意見や要望も取り入れるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告も含め、日常的に交流を持つようにしています。また、市町村の催し物にも参加し顔を覚えていただくことから始めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての理解や実践はまだまだ課題が残っています。拘束をしなければ事故が起きてしまう！という考えや夜勤者の現状を考えるとなかなか徹底した拘束をしないケアに繋がっていきません。安全とは何か？拘束をしないケアとは？カンファレンスを通して伝えています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に観察を行い、普段から皮膚の状態は良く観ています。お風呂時や更衣時にもしっかり観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。日常の介助方法も見直しています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告としてカンファレンスで共有しています。もっと、色々な職員が参加出来るようになっていきたいと思います。(現在は管理者のみが参加し伝えています)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い同意を得ていましたが、契約などに来られない家族様からの苦情や問い合わせが多いことから顔の見えない家族への対応や説明をしっかりと行う必要があると感じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のカンファレンスや個人的に話ができる時間を設け、意見・提案を聞くようにしています。また、各フロアリーダーを通して意見や要望があれば聞くようにしています。話しやすい関係性が大切だと思います。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスの他に個人面談を実施しています。運営に関することでの意見を取り入れることは現場の声を聞く。という面でも重要だと思っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるよう研修システムや就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声をかけ不安やストレスはないか？を確認しています。また、表情や最近の勤務態度などの非言語的なようすからもくみ取るようにしています。また、法人内の研修には積極的に参加してもらうよう勤務調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや社会福祉協議会の方と認知症養成講座を通じて交流をしています。また、グループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場にはしています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前訪問にご自宅へ行かせてもらってます。その人の生活環境や生活歴などの話をゆっくりと聞き利用者の思いをお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至るまでの家族様等からの問い合わせや相談ごとは、施設長と看護師でもある副施設長で介護・医療を分けて対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、相談内容と要望をお聞きしています。家族様がどのような状況の中で相談しているかを把握してサービスの話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、なじみの関係性ができるよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。逆に馴れ馴れしすぎる対応も配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を取り合い、お互いの情報共有をしています。また、家族様側のお話も聞く時間をもち立場や思いを聞き取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の交友関係を大切に、今までお付き合いのあった友人は積極的に来ていただき、交流が途切れないようにしています。友達交流は盛んです。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作成することや同じ作業をすることで共通の時間が持てることやリビングで過ごす時間を持って頂くことで憩いの場が提供できています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様がお亡くなりになることで交流が途絶えることが多いです。これまで築いてきた関係性を大切にしたいと考えております。グリーンケアなど、遺族が集まれる会を作れたら・・・と思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように思います。そのひとらしい暮らしの実現は今後の課題です。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみのものやなじみの関係性はかなり重要だと思っています。施設に入ると社会との交流まで閉ざされる傾向があるため施設事態がオープンであるよう心がけています。アセスメントシートではご本人の暮らしをお聞きするようになっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方を尊重するようにしていますが、なかなか食事や入浴などはこちらの段取りでお願いすることが多いです。心身状態は常に観察し、必要であれば看護師に報告するなどしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。また、現状で出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フローシートにその日の様子を記入しています。一枚をみれば分かるよう工夫しています。また、毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々の実践に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるような工夫をしています。しかし、なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や児童や生徒さんとのふれあいを積極的に取り組むことで社会交流が図られています。近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の存在は大きく利用者様の安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療が受けられるよう配慮しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者様の健康に留意し、いつもと違う、なにか変だ、と言うときはすぐに報告しています。適切な段階で看護介入できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は定期的にお見舞いに行き、病棟看護師や看護師長との連携を図っています。 また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方や看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。 ご本人の安楽を優先して考えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などの事故や急変が起きた場合には速やかに対応⇒報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。夜間対応に関する訓練が出来ておらず、今後、早急を実施します。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なくかける言葉のきつさや相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けます。みんなで確認し、注意しあえる関係作りも必要だと思っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズを日常生活会話からさりげなく聞き出し、ケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。自己決定できる環境作りも大切だと感じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧やマニキュアでお洒落を楽しんだり、ヘアスタイルをご自分で決めていただいたりし、その人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは、事前にアセスメントし提供していますが、ADLの低下で食事形態を変更しています。厨房での調理のため片付けを手伝っていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせて、フロア内や居室での口腔ケアの実施はできています。必要に応じて訪問歯科の利用が行えます。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能を評価して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の方法にあった便秘予防に努めています。それでも排便困難時は、看護師と相談し服薬等で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・ヒアリング等による体調確認、意向確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、就寝は本人の思いを確認しながら行っています。生活リズムを整える方、起きていると負担のある方に関しては、離床や休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師にて行っています。服薬に関しては、準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることなどをアセスメントし、行ってもらってます。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望により散歩等出来るだけ行うよう支援しています。家族が来所され外食や中央ホールでの団欒での食事など施設をオープンにしてその人の思いに寄り添える支援をと努めています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所にあたり、今までお金を所持していた利用者が突然お金が持てないことは、とても辛いことです。 その人に応じて金銭を管理してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節感が味わえる物や飾り物そしてアロマオイルで臭覚の刺激。 利用者が心地よく暮らしてもらえるよう心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場の提供に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の思いで馴染みのある物を持ってきてもらい落ち着ける空間作りができるよう心がけ工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。 季節感の味わえる花や飾り物や食物も施設周りに植え実を収穫してもらっています。		